

資 料

イギリスの看護教育における感染予防教育 —イングランドの看護教育の視察から学んだもの—

東野 督子*

要 旨

本調査は、イギリスの本学と同規模の看護大学での、成人看護学の教育現状とその中の「感染看護」について『どのような教育がされているのか』の示唆を得る目的で資料を収集した。Oxford Brookes University の Adult Nursing の担当教員へのインタビューや授業見学及び実習病院を見学して資料を収集した。Adult Nursing の実習目標は27項目あり、この中に感染看護に関連する Universal Precaution/Infection Control が含まれていた。実習記録のフレームは「実習指導者、単位認定者と学生とのコミュニケーション」、「実習実施の確認記録」、「学生自身が目標達成を計画する」の3つの効果をねらって作成されていて、学生は「知識」、「技術」、「態度」の視点が示されている27個の目標を「1. 観察、2. 監督下の元で看護を提供、3. 手助けなく一人で行う」という段階を踏んで3年間で目標を達成しながら学習する。このように年単位で積み上げていく記録を用いて看護の実践を体験することで、看護職を基盤として生涯にわたる学習することに繋がっていくと考える。

キーワード：感染予防看護、イングランド、看護学教育

I. はじめに

日本における看護系大学の数は、平成3年に11校であったが、平成19年には158校を上回った。この看護系大学の増加の背景には、高齢社会や介護・福祉分野の充実を望む国民のニーズがあり、看護系大学は、社会の要請に応えるために専門性のある看護職者の育成を目指すことになった。平成14年には「看護学教育の在り方に関する検討会」が、専門性のある看護職の育成を目指すために、学士課程のカリキュラムの在り方のうち最低限身に付けておくべき技術学習項目をまとめ、看護教育の内容において精選の必要性があることを提示した。「看護学教育の在り方に関する検討会」が、学士課程で欠くことができないとした『看護基本技術』の中には13の学習技術が示され、その1つに『感染予防の技

術』がある。そして、この学習を支える知識・技術として「スタンダードプリコーション（標準予防策）、洗浄・消毒・滅菌、無菌操作、医療廃棄物管理」が記載されている¹⁾²⁾。

これらを踏まえて日本赤十字豊田看護大学（以下：本学）では感染予防に関連する知識・技術は、2年次に開講する「感染看護」の科目の中で、習得できるよう位置づけ、また技術の獲得を単に「技術の習熟」に終始するのではなく「問題解決能力を伴った技術の修得」を目指した内容を盛り込んだ。「感染看護」を受講するまでに学生は、「微生物学」、「免疫学」の授業をそれぞれ30時間（2008年度）学んでいる。学生は、「感染看護」の演習で「スタンダードプリコーション」や「手術室手洗い」を実施しながら、「手指衛生の看護技術」を修得する。「細菌学実験」では、細菌の発育状況の観察から消毒薬の効果や医療廃棄物を管理するために必要な知識を習得し、3・4年次に成人看護学実習に臨む。しかし、これらの演習は8時間という限られた時間であり、実習前に行う

*日本赤十字豊田看護大学

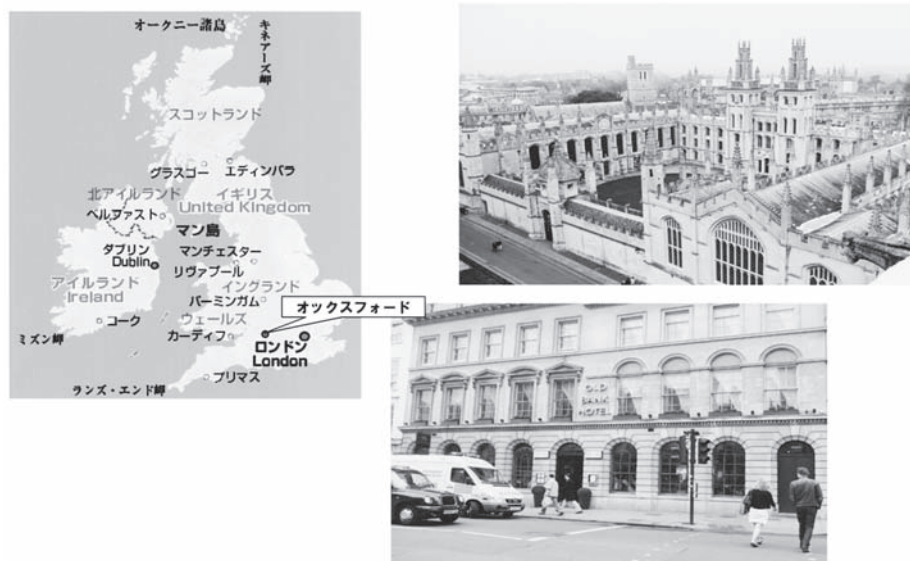


図1 オックスフォードの町並み

表1 イギリスの視察日程

4月16日(水)	日本からイングランドヒースロー空港を経てOxfordに到着。
4月17日(木)	書店BlackwellにてInfection Control関連の教科書等を購入。
4月18日(金)	Oxford Brookes大学の訪問とキャンパスの見学。感染予防看護学のモジュールリーダーのDr. Sueへのインタビューを実施。
4月19日(土)	通訳者とまとめ
4月21日(月)	SwidonのBrookes大学のオープンデイの参加とキャンパスの見学。
4月22日(火)	Oxford Radcliffe Hospitals(実習病院)の見学とスタッフへのインタビューの実施。
4月23日(水)	Oxford Brookes大学の日本人留学生へのインタビューを実施。
4月24日(木)	Oxford Brookes大学Adult NursingのリーダーMrs. Annと面接。
4月25日(金)	Churchill Hospital ICN Mr. Simonが行う院内感染予防講習会に参加。
4月26日(土)	通訳者とまとめ
4月28日(月)	Dr. Sueが担当する感染予防看護の授業を受講。
4月29日(火)	Oxfordからヒースロー空港を出発。
4月30日(水)	日本に到着。

方法として適切であるかの検討は十分されているとは言えない。

そこで、本調査は、感染看護の先進国であり日本と同様に登録前基礎教育に学士課程と専門課程があるイギリスの看護大学成人看護コースの教育の現状と其中的「感染看護」について『どのような教育がされているのか』を知るために資料を集め『効果的な感染看護教育』の示唆を得る目的で開始した。

II. 方法

1. 2008年4月16日～4月30日にイングランドOxford Brookes Universityを訪問して、Adult Nursing(以下成人看護コース)の担当教員へのインタビューと

授業見学を行い成人看護コースで行われている感染予防看護に関連する教育資料を得る。

2. 実習病院Oxford Radcliffe Hospitals(3病院)のInfection Control Team(以下ICT)スタッフが行っている活動を見学し関連する資料を収集する。(図1、表1)

III. イングランドOxford Brookes Universityの概要

1. イギリスの訪問先大学に選定した理由

Oxford Brookes Universityは、2007年に看護助産協会(Nursing Midwifery Council [以下NMC])が行った調査Simulation and Practice Learning Project, FINAL REPORT³⁾(実践期間の最高10%までをシミュレーションを用いた方法を導入する効果の検討調査)の対象大



図2 Brookes大学Adult Nursingの校舎と演習室

学に選ばれた13のうちの1つであった。この調査は6,361名の学生が参加した関心の高いものであり、13の大学は2006年10月から2007年1月まで調査され登録前看護師教育において安全な実践学習を行うシミュレーションを導入するための条件を満たした大学であった。Oxford Brookes UniversityがNMCが行った調査の対象に選定された基準にあることは、今回の訪問大学に選定した理由の1つになった。また、Oxford Brookes Universityの定員は1学年140人である規模や立地は、イギリスの首都ロンドンから鉄道所要時間1時間のところにあること、学問の中心として世界中から学生が集う歴史ある町であり、周辺には宅地や農地が隣接している環境にあることも選定の条件とした。

一方、本学の基礎看護学領域の技術演習は90時間、成人看護学領域の技術演習は60時間（看護過程演習を含む）である（2008年度）。成人看護領域においてはモデル人形を用いたシミュレーションを30時間（50%）行っている。看護技術の科目名や実施時間は各大学により違うため大学間の比較は難しいがシラバスなどの比較から本学の技術演習の項目は同一県内の看護系大学より多く設定されている。定員は1学年130名であり、4年間の就学を経て、卒業要件の132単位を取得することにより看護師・保健師国家試験受験資格が得られるカリキュラムとなっている。また大学の立地は、日本における3大都市圏の1つである名古屋市から鉄道所要時間1時間の豊田市にあり、1km以内に2つの大学がある。また、周辺環境には宅地や農地、山林がある。

Oxford Brookes Universityと本大学は、看護教育環境や大学の規模や周辺環境を比較できる要素があることが

推測された。（図2）

2. Oxford Brookes Universityの「成人看護コース」の内容⁴⁾

【イギリスにおける看護の高等教育】

イギリスの看護師の登録領域は成人看護、精神保健看護、学習障害看護、小児看護の4領域に分かれている。大学のdiploma（専門課程）、degree（学士課程）は1年次に共通基礎課程で全領域の実習を経験する、2年次と3年次は領域別課程で1年次の終わりに選択した領域で理論と実践を学ぶ。理論と実践の割合はどの年度も50%ずつである。国家試験はなく、3年ごとに免許の書き換えがある。更新の要件は、実践と領域に関連した自己研鑽活動である。

【Oxford Brookes Universityの成人看護コースの目的】

成人看護コースはライフサイクルをとおして慢性期的・急性期的な健康問題をもっている成人に対して看護技術を応用して授業を行う。創造的で実践的な看護ケアが提供できて、信頼される専門的な実践者としての看護師を教育することを目的としている。このプログラムは看護の理論と実践を統合する経験を通して、幅広い知識を修得できる。ここでの実習場所は、病院から地域にまで及ぶ。

成人看護コースはdiplomaあるいはdegreeで学ぶことができ、場所はOxfordあるいはSwindon（Oxfordの隣町）のいずれかで学ぶことができる。プログラムの全てを通してOxfordには140名の学生が学んでいて9月入学と1月入学に分けて入学を受け入れている。ただしSwindonは80名の定員であり9月入学のみである。

【卒業の要件】

Diploma の学生は、20 modules（授業単位）を修得する。Degree の学生は、24 modules を修得し、この中に論文を作成する単位を含まなければならない。これらの在籍期間はフルタイムで就学し3年であり、6年を超えることができない。働きながらの学生は、5年を越えられない。

【授業の形式】

臨床での経験は、講義、ゼミナール、演習、臨床技術、実験演習を行いながら設定されている。経験、自主学習、ディスカッション、討論を行うことにより、卒業に必要な専門的技術、必要な知識を修得できる。臨床の知識を用いたアセスメントの実践により、修了の単位の目的を達成できる。ここでの授業は、エッセイ、実験、プレゼンテーション、プロジェクト、学習構築などを含む。

【実習場所】

看護実習は卒業の要件の要であり通常は8つの場所で行われる。学生は臨床の指導者のサポートを受けながら実習する。1年目は1セメスターの6週目に講義に続いて実習が開始される。

この間に学生は、教員の指導のもとに外科、内科、地域などさまざまな場所にて実習を行う。学生は最低12回の夜勤をおこなう必要がある。国内外の場所での実習は、2年目の夏休み中に、学生が選択した場所で行った実習を単位として読み替えることが可能である。

【セメスター（学期）について】

1年は2つのセメスターに分かれていてそれぞれ11週と12週でまとめられている。

1セメスター：9月の終わり～1月の終り

2セメスター：1月の終わり～5月の終り

NMCは成人看護コースのプログラムで行われるものを含めて4,600時間を達成することを規程している⁵⁾。

3. Brookes Universityで成人看護コースの感染看護に関連する実習要項と実習記録

Brookes Universityの成人看護コースの実習目標は27項目ある（表2）。27項目のうちさらに6つの中心となる能力達成目標として「1：Risk Assessment and Management」、「5：Communication Skills」、「12：Universal Precautions/Infection Control」、「20：Multi and Inter professional teamwork」、「23：Self Awareness」、「24：Personal and Professional

Development」が示され、1年次に開講される3つの実習のいずれにおいても実施しなければならないと記載されている。感染看護に関連する Universal Precaution/Infection Controlはこの6つの項目に含まれている。

実習記録のフレームは「実習指導者、単位認定者と学生とのコミュニケーション」、「実習実施の確認記録」、「学生自身が目標達成を計画する」の3つの効果をねらって作成されていて、学生はこの27項目の目標を3つの段階（1. 観察、2. 監督下の元で看護を提供、3. 手助けなく一人で行う）を踏まえながら3年間で達成していく。また達成が課せられた27項目の目標は1つ1つの目標に対して「知識」、「技術」、「態度」の視点で内容が示され、実習指導者と学生は個々に評価を記載しながら実習記録のフレームを完成させることを課されている（表3）。

IV. 考 察**1. 実践と理論（実習時間数と学内時間）**

これまでNMCは理論と実践の割合を50%と規定し、実践と経験を重視していたが、「シミュレーションを用いた方法を導入することの効果」について報告され³⁾、教育方法（シミュレーションを用いる方法）が、実践を支えることを指示する報告の1つとなったと考える。本学では、卒業に必要な単位数は（2009年度以降）129単位で、そのうちの29単位（4年間）が実習である。理論と実践という2つの分類で比率を見ると実習は総単位の22%となり、NMCの示す規定の分類と比較すれば日本の看護大学の実習時間はかなり少ないことになる。

本学の成人看護学を例にとれば、理論と実践の間に位置する技術演習としてモデル人形を用いたシミュレーションを30時間行っている。現在のところ、自身が担当した学生から「演習は実習に役立ち、多く行いたい。」との意見をもらっているが、残念なことに演習の効果についての検討は不十分である。教育の効果は、時間数の多い少ないという視点だけでなく、時代が求める看護専門職の育成のための内容を含めた検討が必要とされる。昨今、看護職の離職率を思い、イングランドで報告された大規模な調査³⁾のように教育方法の分析と検討が必要であることを改めて考えた。

表2 List of programme specific competencies Adult Nursing Competencies

Competency1 : Risk Assessment and Management
Competency2 : Assessment of Client Needs
Competency3 : Prioritizing and managing care delivery
Competency4 : Evaluation of Care
Competency5 : Communication Skills
Competency6 : Therapeutic relationships
Competency7 : Understanding and Interpreting Non-verbal Behaviour
Competency8 : Professional communication and Documentation
Competency9 : Care Delivery/Providing Comfort
Competency10 : Monitoring physiological status
Competency11 : Drug Administration
Competency12 : Universal Precautions/Infection Control
Competency13 : Moving and Handling
Competency14 : Nutrition, Hydration and Elimination
Competency15 : Use of research and evidence based practice
Competency16 : Clinical Decision making/Managing Complex Situations
Competency17 : Care Delivery/Immediate Care and Emergency Situations
Competency18 : Managing violence and aggression
Competency19 : Planning clients transition from one setting to another
Competency20 : Multi and Inter professional teamwork
Competency21 : Health Promotion
Competency22 : Professional Behaviour
Competency23 : Self Awareness
Competency24 : Personal and Professional Development
Competency25 : Loss, Adjustment and Transition
Competency26 : Acute and chronic pain management
Competency27 : Wound Care

Competencies in bold type are core competencies that must achieved in every placement.
(Practice/Student portfolio-Adult/2007/08 Version)

2. 実習目標に関連する比較

Oxford Brookes University の成人看護コースの実習は3年間で2300時間行い、その実習の目標は27項目である。その中に Universal Precaution/Infection Control があり、学生は3つの段階（1. 観察、2. 監督下の元で看護を提供、3. 手助けなく一人で行う）を踏まえて3年間でこれを達成する。また27項目の目標には「知識」「技術」「態度」の内容が含まれ、実習指導者と学生はそれぞれに評価を記載しフレームワークを完成して目標の達成度を確認しながら3年間の実習を積み上げていく。この記録を使用することで、学生は不十分な部分を、繰り返し認識し、できるようになった部分を積み上げていくという認識が育つのではないかと考える。この記録を手にした時、イギリスが国を挙げて推奨する「仕事を基本にする生涯学習」を思い起こした⁶⁾。まさにこれは、看護師が看護職を基盤とする生涯学習（Nursing based learning [以下 NBL]）をすすめる第一歩につながるかもしれないと思った。

一方、本学の成人看護学実習（急性期・慢性期）の目標は、それぞれは10項目である（看護過程、コミュニケーション技術、看護技術、安全の原則、患者価値観・信念に配慮する、患者教育、他の医療従事者との協調、専門職としての態度、患者の権利擁護者としての態度）。それぞれの項目は、5つの段階評価基準（5：ほとんどできる、4：時々援助を受ければできる、3：時々援助を受ければなんとかできる、2：常に援助を受ければなんとかできる、1：援助をうけてもできない。）で評価される。感染という名称は評価項目にはないが、10項目のうち「看護技術」、「安全の原則」に包含される。

技術に関しては、評価項目とは別に「技術到達度チェック表」を作成し卒業までに必要とされる技術項目を学生がチェックできるようにしている。感染に関わる項目は「スタンダードプリコーション」、「洗浄・消毒・滅菌」、「無菌操作」、「医療廃棄物の取り扱い」であり、学生自身も実習の中間と終了時に自己の振り返りチェック表を確認している。しかしながら、現在のとこ

表3 実習目標に「ユニバーサルプリコーション／感染予防」の年次別目標と記録

Competency 12: Universal Precautions / Infection Control							
Year 1		Mentor/LL signature		Year 2		Mentor/LL signature	
Year 3		Mentor/LL signature		Year 3		Mentor/LL signature	
Semester / Placement				All at year 1 plus			
Skill Under supervision, acts in a manner that minimises the spread of infections through the implementation of Universal Infection Control Precautions.				Skill Acts in a manner that minimises the spread of infections through the implementation of Universal Infection Control Precautions.			
Knowledge Understands the principles of Universal Infection Control Precautions. Has an understanding of the policies and protocols in the relevant Infection Control Manual and knows who to communicate with within the multidisciplinary team.				Knowledge Understands Universal Infection Control Precautions that can be applied in their area of practice. Has an understanding of the policies and protocols in the relevant Infection Control Manual. Knows who to communicate with within the multidisciplinary team.			
Attitude Acknowledges own duty of care to clients and others within the practice setting.				Attitude Acknowledges own duty of care to clients and others within the practice setting.			
Please clearly indicate if opportunity not available.							

Competency 12: Universal Precautions / Infection Control		
YEAR 1	YEAR 2	YEAR 3
Semester Placement Student Reflection	Semester Placement Student Reflection	Semester Placement Student Reflection
Mentor Feedback	Mentor Feedback	Mentor Feedback
Signature: _____ Date: _____	Signature: _____ Date: _____	Signature: _____ Date: _____
Semester Placement Student Reflection	Semester Placement Student Reflection	Semester Placement Student Reflection
Mentor Feedback	Mentor Feedback	Mentor Feedback
Signature: _____ Date: _____	Signature: _____ Date: _____	Signature: _____ Date: _____

NB: Student Self assessment must be completed before Mentor feedback is given

ろ本学は在学4年間を通して使用する記録を用いていない。日本の規定では、卒業までに基礎看護学、成人看護学（急性期・慢性期）、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、地域看護学の7つの実習を行うことになっている。同一の評価用紙を卒業まで使用する場

合、それぞれの特徴が出しにくくなることが予測される。別々とするれば積み上げていく視点は少なくなる。このように一長一短はあるものの4年間継続する評価表は多くの利益が得られると考える。まずは、成人領域における急性期実習（3週間）、慢性期実習（3週間）の評価の積

み上げを確認できることの検討を行いたいと考える。

3. 本学での教育

本学は日本赤十字学園の5番目の大学として平成16年に4月に開学した。本学の母体である日本赤十字社は、明治22年には看護婦養成規則を制定し、23年には救護看護婦養成を開始した⁷⁾。このように日本における看護婦教育の創設に関連をもつ伝統ある大学である。本学の開学時には、これまでの赤十字看護婦養成の卒業生から多くの寄付をいただき十分な技術教育を行う準備がなされた。この環境を無駄にすることなく、単に看護師の人数をふやすための養成所ではなく真に社会の要請に応えることのできる看護師の育成と感染看護における看護師の役割を理解し実践できる育成を行いたいと考える。

おわりに

実習病院 Oxford Radcliffe Hospitals の ICT を訪問して得られた示唆は別に報告し、ここでは感想を述べるにとどめる。

イギリスでは、感染予防に携わるスタッフの人数とそれに費やす時間と対象が日本とは違っていた。ICN チームには、専属マネージャーをはじめとする医師（細菌の専門）や看護師（1500床に5.5人）、薬剤師（抗生剤専門）、Auditer（サーベイランス専門）、事務員で構成されていて、日本のチーム構成とは違っていた。今回、このチームメンバーの1人である Tricia さん（ICN）の案内で ICU、CCU、救急、内科病棟を見学した。

ICU では、デスポ製品が使用されていて尿器を始めとする膿盆、洗面器、ハサミ、カーテンにいたるまで使用後は破棄されていた（CCU は ICU ほど多種類のデスポ製品の使用はなかった）。また、印象深かったことの1つは、感染対策を病院の事務職員を含めて患者のみならず、家族に対しても啓蒙活動を行っていることである。特に MRSA の制圧には力が注がれ、患者・家族に手渡す冊子を用いて、丁寧な説明がされていた。

最後に、ICU 入口にスタッフ全員の顔写真が掲示されていて、それは、医療を提供する責任と自信のあらわれなのかもしれないと思った。今回の調査で感染予防教育についての新たな示唆を得たことから、今後効果的な教育方法の検討を行いたいと考えた。

謝辞

訪問にあたり、実習病院の紹介や案内をしてくださった Brookes University 成人看護コース教員の Mrs. Ann Bradsaw に感謝いたします。また、通訳と訪問のスケジュールを調整してくださった Oxford 在住の Mrs. Masako Sparrowhawk に深く感謝いたします。

本研究は、平成20年度 科学研究補助金（基盤C）による研究の1部分である。本論分の1部分は、第13回日本看護研究学会東海地方会で発表し、加筆・修正を加えたものである。

文 献

- 1) 日本看護系協議会：2006年 看護学教育に関する見解、(<http://janpu.umin.ac.jp/>) 2007.
- 2) 文部科学省：大学における看護実践能力の育成の充実に向けて、平成14年3月看護学教育の在り方に関する検討会報告書、2002.
- 3) Nursing and Midwifery Council: Simulation and Practice Learning Project, FINAL REPORT 2007. (www.nmc-uk.org/) 2008.
- 4) Oxford Brookes University: (www.brookes.ac.uk/) 2008.
- 5) Nursing and Midwifery Council: Standard of proficiency for pre-registration nursing education, 2004. (www.nmc-uk.org/) 2008.
- 6) 近藤克則：「医療費抑制の時代」を超えて—イギリスの医療・福祉改革—, 68-86, 医学書院, 2002.
- 7) 「日赤の手引き」刊行委員会：人道, 143-160, 1990.